

花巻流通業務団地
立地企業に聞く②



東北支社 岩手支店長
鈴木 一行 さん

株式会社Paltac東北支社
物流センター(RDC東北)

当社は、化粧品や日用品、一般医薬品など、「美と健康」に関する商品の卸売りをしています。花巻流通業務団地に立地を決めた主な理由は二つあります。一つは花巻市が東北地方の中心に位置していたこと。もう一つは、全国有数の高速交通インフラが整備されていたことです。団地に隣接する東北自動車道や釜石自動車道を使い、東西南北、どの方向に向かってもスピーディーかつ広域に商品をお届けできることは、大きな魅力です。花巻での操業から6年目を迎え、改めて立地の良さを実感しています。



RDC東北センター長
新岡 智和 さん

仕入れ、小売業様にお届けするのが当社の仕事です。取り扱っている個数は年間約25億個に上り、国民1人当たりでは約20個の計算になります。ここ花巻では、全国1100社を超えるメーカー様の商品、約1万7000種類を取り扱っています。流通の仕事は、一般の方にはなじみがないかもしれませんが、生活に欠かせない商品を届けるという重要な役割を果たしています。地元パートナーを中心に約150人の方に仕事をしていただいています。現在、立地の良さを活かして、さらなる事業規模拡大のため、倉庫の拡張工事を進めており、新たに200人を募集する予定です。



●会社概要
明治31(1898)年創業。本社は大阪市。平成21年11月、花巻に物流センターを設置。製造から消費者まで、流通全体を見据えた新しい価値を提供する、新時代の流通創造を目指している。

身近な存在の物流が産業発展の原動力に

花巻流通業務団地では現在、倉庫業、運送業、卸売業などを業務とする市内企業6社と市外企業16社が精力的に事業を展開しています。東日本大震災では、同団地に立地する多くの企業が、寸断された流通ネットワークをいち早く復旧させ、沿岸被災地への円滑な商品供給を開始するとともに、系列会社や同業他社への支援を行いました。その役割を大いに発揮しました。

物流は、私たちの生活に欠かせない機能を担う重要で身近な存在であるとともに、本市の産業発展を担う原動力になっています。

【問い合わせ】本庁商工労政課
企業立地推進室(☎24-211-1内線387)

災害に備えよう

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から4年が経過します。本市でも、市内全域の停電や相次ぐ余震などから、避難所での生活を余儀なくされた人がいたほか、地震の揺れによって建物や土地に被害が発生するなど、生活に大きな影響がありました。災害はいつやってくるかわかりません。突然の災害から身を守るには、日ごろからの備えが大切です。



各世帯で備蓄品の準備・更新を行いましょう
(写真は市の備蓄品の例です)

■非常持ち出し品の例

貴重品	現金、印鑑、保険証、預金通帳、身分を証明できるものなど
衣類 洗面用具	下着、靴下、セーター、タオル、せっけん、歯磨き用品、紙おむつなど
水・食料品	飲料水、非常食、粉ミルクなど
道具類	懐中電灯、携帯ラジオ、乾電池、軍手、マッチ・ライター、栓抜き・缶切り、ティッシュ、使い捨てカイロ、筆記用具、雨具、救急セットなど

非常持ち出し品とは、災害が発生し避難するときに持ち出すとよいものをいいます。非常持ち出し品は、持ち出せる大きさの袋にまとめ、身近な方と保管場所を確認しておくとともに定期的に点検することが大切です。また、災害時には、停電や断水によって普段どおりの生活ができなくなる場合があります。非常持ち出し品とは別に、少なくとも数日間生活できるだけの備蓄品を準備しておくことも大切です。備蓄品には水や食料のほか、毛布が挙げられます。備蓄品は少なくとも3

避難しなればならないときに慌てないように、日ごろから避難所を確認しておきましょう。実際に避難所まで歩いてみて、避難する際に危険な場所や物はないか確認しておくことも大切です。市では、災害時に、自主避難の受け入れや安否情報収集拠点として、振興センターなどを「拠点避難所」として開設します。また、避難が長期に及ぶ場合や大規模な災害によって、拠点避難所だけの対応が困難な場合などに、学校や地区体育館を「二次的な

【問い合わせ】
本庁防災危機管理課
(☎24-2111内線477)